

【発行所】

佐賀県三養基郡みやき町
 大字原古賀7324

独立行政法人 国立病院機構 **東佐賀病院**

【編集発行】 広報委員会

《基本理念》

信頼関係を大切にし、
 地域に根ざした良質な医療を提供します。



初 雪

目 次

*題字「ひがしさが」 平野 長照 名誉院長 書

■ 巻頭言	2	■ 平成30年度医事業務研修を受講して	9
■ 医療安全相互チェックを実施して	3	■ 第2回貞松院長杯ボウリング大会	10
■ 地域医療支援病院医療従事者研修	4	■ 東佐賀病院合同忘年会	11
■ 第3回国立病院機構東佐賀病院学術セミナー	5	■ 地域医療連携室のご案内	12
■ 地域包括ケア病棟クリスマスコンサートを開催して	6	■ 外来診療担当医表	13
■ 第72回国立病院総合医学会に参加して	7	■ 病院アクセスマップ	14
■ みやき町 町民祭	8	■ 地域医療研修センターのご案内	14



巻頭言

明けましておめでとうございます。

平成最後の年となる31年がスタートしました。皆様よい年を迎えられたと思います。

さて、私事ですが、今年度末をもちまして定年退職となります。平成6年入職以来25年、平成21年に院長職を拝命し現在まで10年、大変お世話になりました。ここで院長職拝命後の10年を簡単に振り返ってみます。

まず、平成22年11月16日県知事より県内4番目となる地域医療支援病院の承認を受けました。当院の基本理念は「信頼関係を大切に、地域に根ざした良質な医療を提供します」です。職員はこの基本理念実現のために業務を行っています。この基本理念を実践することが地域医療支援病院の役割であり、患者に選ばれる病院であると考えました。

次に平成25年3月19日に一般病棟、平成26年3月31日に重症心身障害児・(者)病棟の建て替えを行いました。病棟のコンセプトは「患者目線にたった病棟」であり、病棟完成後から「病棟が新しくなっても、新しい東佐賀病院になったとは言えない、中身の充実が重要である」ということを言い続けてきました。

また建替に際して包括ケア病棟を、平成26年10月1日29床で開始し、平成27年3月1日には60床での本格運用を開始しました。当院の一般入院患者の疾病構造を勘案すると約半数がpost acute, sub acuteの患者です。そのため、包括ケア病棟の採用が、より良質な医療の提供に繋がると考えました。2025年問題も踏まえ当分持続させるべき診療機能と考えます。

そして、以前より県から要望されていたことですが、今年度より透析患者で結核併発患者を当院で受け入れることになりました。既にポータブル透析機を1病棟に整備しました。患者が発生した場合、当院に入院し結核の治療を行いながら、県立病院から透析チーム (Dr. Nr. ME) が来院し透析を行うこととなります。

以上10年をごく簡単に振り返りましたが、やり残したこともあります。外来管理棟の建て替え、電子カルテの導入、MRIの整備です。今後の当院での重要課題となり、皆様のご協力をお願いします。

仕事始めの挨拶において今年に変革の年になると申しました。折しも安倍総理の所信表明演説のキーワードも変革でした。機構本部も第四期中期計画を変革期と位置づけています。世の中が大きく変わっていく訳ですが、この四月で院長、副院長、事務部長が交代します。職員の皆様は変化を恐れずにより良い変革を行い、地域に必要とされる東佐賀病院作りを目指してください。

職員の皆様の活躍を期待しています。

医療安全相互チェックを実施して

医事専門職 原 秀憲

病院間における医療安全相互チェックは、機構全体の医療安全対策の標準化、医療安全の質の向上と均てん化に繋げていくことを目的としています。国立病院機構の第3期中期計画に基づき実施されており、各病院における医療安全対策の現状について自己評価及び他者評価を実施することによって、自施設の課題の明確化と、他施設の良い取り組みを参考にし、自施設への還元が期待できます。

当院は、平成30年10月に西別府病院と相互チェックを実施しました。医療安全対策に関連する137項目、規程及びマニュアルに関連する37項目、委員会・研修会に関連する17項目について

の評価及び院内視察でのヒアリングの結果から、優れている事項及び改善を要する事項について、それぞれの病院に対して提言報告書を作成しました。

改善を要する事項の中で、マニュアルの整備などすぐに対応できる事項については取り組んでいますが、施設環境面など時間を要する事項については院内で検討を重ねているところです。

今回、相互チェックを実施するにあたって、各部門にご協力いただき、ありがとうございました。



地域医療支援病院医療従事者研修

第1回COPD対策・啓発セミナーを開催しました

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 山口 裕二

地域医療支援病院の取り組みとして、10月17日「COPDは生活習慣病なんです」というタイトルで当院周辺施設の医療従事者対象に研修会を開催しました。研修会の内容としてCOPDの認知度（健康日本21）、疫学、2018年に改訂されたガイドライン、基本的な病態、患者様自身が生活の質を変える取り組み（セルフマネジメント能力の向上）などについて講義を行いました。

講義終了後、参加者の質問に答えながら意見交換をする機会がありました。意見交換をする中で、参加者から「今日話を聞いてCOPDの可能性がある患者様もいるような気がします。早めの治療が重要で、自分がCOPDかもしれ



ないと思ってもらうことが大事なんですね」というコメントがありました。地域の医療や介護に従事している方が連携し、啓発活動や病気の早期発見に繋がる取り組みを行い、医療従事者がCOPDについて正しい知識をもつ必要がある



という私の思いが伝わったことを感じました。肺の生活習慣病であるCOPDで苦しむ方が少しでも減



少することを考え、今後も地域と連携が取れるような活動を目指していきたいと思います。

地域医療支援病院医療従事者研修を終えて
～口の健康、ささいな口の変化を認識しよう～

摂食嚥下障害看護認定看護師 副看護師長 岸川 理恵

平成30年10月31日地域医療支援病院医療従事者研修にて、テーマ『口の健康「オーラルフレイル」を知っていますか』をお話しさせていただきました。「オーラルフレイル」は聞き慣れない言葉かも知れませんが、テレビや雑誌で取り上げ始められた口の健康に関する言葉です。

このテーマを取り上げた理由は、近隣の病院、診療所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム（介護付・住居型）、グループホーム、訪問看護ステーションなどで勤務する方々と共に、患者や利用者の口の健康に関心を高めていきたいと考えたからです。



オーラルフレイルとは口の健康障害を招きやすい状態のことをいいます。

たかが口の健康障害と侮るなかれ、放置すると口の機能が低下し低栄養やサルコペニア、フレイル重

度化となり、さらに食べる機能の障害を招き要介護状態や運動・栄養障害に陥ることになります。そこで、今回は口の健康障害のサイン（滑舌低下、食べこぼし、



噛めない食品の増加、むせなど）をお伝えし、ケア方法である唾液腺マッサージやパタカラ体操を参加者の皆さんと実践しました。

今後は患者や利用者のささいな口の変化に関心を寄せて、口の機能低下や食べる機能障害を予防していきましょう。

ご多忙の中、参加いただいた近隣の病院、有料老人ホーム（介護付・住居型）、グループホームの職員の方々に感謝いたします。



第3回国立病院機構東佐賀病院学術セミナー

診療部長 山本 修一

去る平成30年11月27日夜、当院の地域医療研修センターにおいて、第3回国立病院機構東佐賀病院学術セミナーが開催された。



講演は3本立てで、まず上通由紀子整形外科、リハビリテーション科医長が「整形外科女性医師の現状と課題」について講演を行った。すべての診療科のうち整形外科は女性医師の占める割合がもっとも低い科であることを初めて知った。現在、いずれの職種においても男女共同参画が課題となる中で、まことに時機を得た講演であり、職場環境整備に加え各家庭、特に男性のサポートの重要性について考えさせられた。次に大井順二内科医長の「当院における上部消化器内視鏡検査と診療～現状と展望～」という講演では、当院の内視鏡検査の現状についての説明があり、後半では胃がんの内視鏡的切除、特に粘膜剥離術について内視鏡画像、病理標本を提示されわかりやすい説明でたいへん勉強になった。最後に北島吉彦副院長が「消化器外科医が挑む癌研究～胃癌と低酸素環境～」という演題で講演を行った。高校で習ったセントラルドグ

マについて話され参加者の基礎的な理解を得た後、低酸素環境において発現が誘導されるHIF-1という転写因子が、特にスキルス胃癌の増殖・浸潤能に関与していることを*vitro*および*vivo*の系で示された。同時にこれまで腹腔内に直接播種されると考えられていたスキルス胃癌が実はリンパ行性に転移している根拠を示され、これはこれまでの常識を覆し教科書の記載が変わる可能性もあることを学んだ。HIF-1をターゲットとした胃癌転移に対する治療薬の治験も計画されているとのことで、今後の研究の発展がますます楽しみである。先生の臨床と研究をダイレクトに結びつける姿勢にたいへん感銘を受けた。



今回は近隣病院、開業医院からの医師9名を含む計47名に出席いただいた。回を重ねるごとに出席者も増えており、本セミナーおよび地域の中核病院としての東佐賀病院がより認知されてきていると感じられた会であった。



地域包括ケア病棟クリスマスコンサートを開催して

2病棟看護師 森田 美保



当院の地域包括ケア病棟は、在宅復帰の為に全身症状を観察しながら、リハビリを主に患者の身体機能回復と退院に向けての支援を行っています。セラピストによるリハビリ以外に病棟リハビリ体操を毎日実践し、筋力低下予防や日常生活のリズムをつけ日々の生活を援助しています。



変化が少ない長期入院生活に彩りを添えようと、三養基高校吹奏楽部による演奏会が今年度より開催され、今回第3回目のコンサートが行われました。クリスマスコンサートということで、オープニングから冬の季節感を思わせる楽曲で始まりました。当初、コンサート参加に消極的だった患者も参加後は、音楽に合わせ手拍子したり、高校生の演奏する方向に視線を向け涙ぐむ様子もみられました。「青い山脈」や「ふるさと」など高齢者にとって懐かしい楽曲が演奏されると、一緒に歌い出していました。懐かしい曲を聴き、孫のような学生達と同じ空間を共有することで「孫が昔吹奏楽部でね、思い出していました」などの声も聞かれ、自身の歩んできた人生を思い出し記憶が蘇ってくるのだと感じました。普段、私達が実践するリハビリ体操だけでは感じない、患者の思いや感情の表出を感じ貴重な時間であったことを実感できました。また、安静を強いられ参加出来ない患者もいましたが、管楽器の音色が病棟全体に流れることで「病室にいても良く聞こえました。いい音色ね、ありがとう」と感謝の言葉も聞かれました。

吹奏楽部の学生は、自分達で進行しそれぞれ曲紹介を丁寧に行い、堂々と演奏していました。学生自身が、今回も開催を望んでいたことを知り高齢者を地域で支える環境づくりが整ってきていると感じ、学生にも善き社会勉強として学習の一環となり、スタッフにとっても良い刺激となりました。次回の暖くなる季節に吹奏楽部部員との再会を待ちたいと思います。

現在の地域包括ケア病棟は、患者状態に応じた個々の看護を提供できるよう日々カンファレンスで情報共有し看護を実践しています。しかし、長期入院となることで、認知力や活動量低下も認め精神状態が不安定になる患者も少なくありません。日々の日常生活の充実を図る為にも、様々な活動を企画し交流を深めていくことが大切であると感じました。



第72回国立病院総合医学学会に参加して

3病棟看護師 松門 佳美

今回、第72回国立病院総合医学学会にて「混合病棟における卒後教育を考える」との演題でポスターセッションに参加しました。

ポスターを用いての発表のため、グラフや文字、配色といった目にとまりやすい構成を考えるのに最も苦労しました。

初めての学会でとても緊張しましたが、全国の国立病院機構で頑張っている仲間と出会うことができ、良い刺激となりました。

また、会場では小児の点滴固定方法の検討や、せん妄発症要因調査、新人看護師の自己理解の傾向など様々なテーマがあり、とても興味深い内容でした。この会場で知り得た情報をスタッフと共有し、より良い看護を提供できるよう働きかけていきたいと思いました。大きな学会での発表という貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

11病棟看護師 岡田 直三

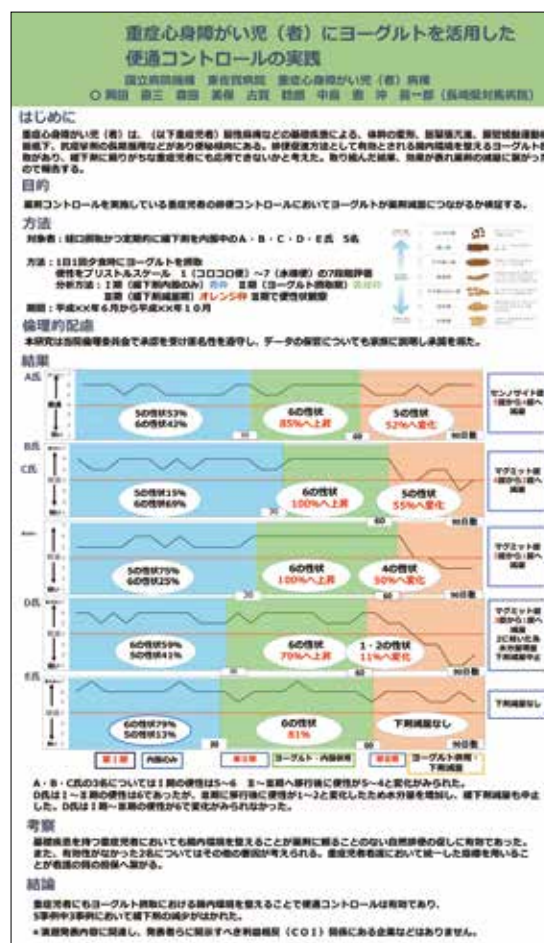
平成30年度第72回国立病院総合医学学会発表において、看護研究で『重症心身障がい児（者）にヨーグルトを活用した便通コントロールの実践』の演題でポスター発表しました。多くの重症心身障がい児（者）は脳性麻痺などの基礎疾患による、体幹の変形・筋緊張亢進・腸管運動機能低下・抗痙攣剤の長期服用などがあり便秘傾向にあります。私の受持ち患者もレイウス予防の為、多くの緩下剤を服用し排便を行っています。そこで、自然排便をめざし、排便促進方法として有効とされる腸内環境を整えるヨーグルト摂取による便通コントロールに取り組みました。実践の結果、ヨーグルトの効果により緩下剤の減量に繋げることができました。発表会場では他病院の排便コントロールに関する演題もあり、各施設の重心障害者病棟でも排便コントロールに対して、課題を抱えている現状があり、たいへん興味深い内容の発表でした。各施設の発表内容で、当院でも実践できることは今後の取り組みに活かし、ケアの向上に努めていきたいと思いました。



も実践できることは今後の取り組みに活かし、ケアの向上に努めていきたいと思いました。

重症心身障がい児（者）を取り巻く環境にはまだまだ多くの課題がありますが、学会でポスターセッションを

行い、重症児（者）看護での質を高めるため様々な取り組みを共有でき大変有意義な学会でした。



みやき町 町民祭

給与係 吉良 林汰朗

11月11日（日）、みやき町の町民祭が開催され、東佐賀病院も参加しました。

当日は、とても天気がよく町民祭日和でした。

当院は、みやき町北茂安保健センターの会場では田中外科医長による「体に優しい腹腔鏡手術」という演題で市民公開講座を行い、広場では肺年齢や骨密度の測定など健康で病院に来ない人が普段行わない測定の無料実施を行いました。さらに、栄養士や薬剤師、医師等による健康相談コーナーでは、来場者の方が抱える健康に関する小さな悩みに対してのアドバイスをしました。



公開講座の参加人数は45名、当院のブース参加者延べ人数347名と昨年より多くの方々にお越しいただき、大盛況のうちに終えることができました。

町民祭にはみやき町内外から多くの団体が参加しており、出店やステージショー、抽選会もあり、おいしい食べ物やお笑いのステージを楽しみました。抽選会では当院の職員も数名当選し、豪華景品を持って帰りました。

町民祭は地域住民に当院の特長や機能を知っていただき、より地域に根ざした病院になっていく為の大切なPR活動の場であると感じました。



平成30年度医事業務研修を受講して

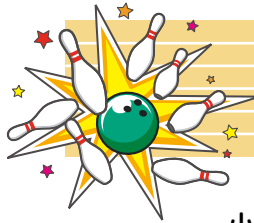
経営企画係長 綾部 純一

9月から11月にかけて毎月1回3日間ずつスクーリング形式の集中講義を受講してきました。医事業務研修は、国立病院機構本部主催で毎年実施されている研修で、自宅学習をメインに、月1回の3日間の集中講義を受講する形式です。研修目的としては、「①病院経営における医事業務の重要性を理解するとともに、診療部門に対し、経営的視点から積極的に提言等を行える人材の育成を図る。②公益財団法人日本医療保険事務協会主催の「診療報酬請求事務能力認定試験」の合格者と同等の知識等を習得する。」ことです。

医事業務（レセプト作成）の知識は多少あったので、研修用に配布されたテキストの内容については比較的にスムーズに学習することが出来ました。しかし、財団主催の認定試験の過去問を初めて見たときは分からない用語が多くて驚きました。12月の試験までにこのような問題が解けるようになるのか不安になりました。ちなみに財団主催の認定試験は、数ある医療事務系の試験の中でも最難関とされていて、合格率はおおむね30%台です。

何とか3ヶ月間の自宅学習と集中講義を乗り切り、12月16日に実施された「第49回診療報酬請求事務能力認定試験」を受験しました。合格を目指してはいましたが、3ヶ月で学習した成果がどれくらいのものであるか確認することを目的としていましたので、試験本番は気楽に臨めたと思います。レセプト作成で予定時間を超えてしまい、学科の時間があまり取れなくて、結果には自信がありませんが、研修から試験までやり終えたという達成感が残っています。

試験の可否はどうか分かりませんが、ここまで学習してきたことを無駄にせず、業務に生かしながら今後も継続的に学習していきたいと思います。貴重な時間を割いて研修に参加させて頂き、ありがとうございました。



第2回貞松院長杯ボウリング大会



小児科医師 中西 未来

11月29日、久留米市のスポガ久留米にて、「第2回貞松院長杯ボウリング大会」が行われました。私は学生時代から趣味でボウリングを続けており、マイボウルも所有しています。大会前には周囲から「お前が優勝やろ」などのプレッシャーをかけられ、これでスコアが低かったらマイボウラーの面目丸潰れだと思ひながら大会に臨みました。

結果は、目標としていた200upを出しての個人1位でした。同じレーンで投げた職員もストライク

を連発するなど、みなさんがボウリングを楽しんでいたようで職員間の交流が図られていたと思います。今回は、おそらく私にはマイナスのハンデが待っていると思われますので、それをはねのけられるように頑張りたいです。

最後になりましたが、この大会を主催した貞松院長先生、ならびに企画・運営をした事務の方々に感謝致します。

当日は、11病棟看護師山下さんから全員プレゼントとして、大根と芋のプレゼントがあり全員が幸せに つつまれていました。



外来看護師 小林 愛

11月29日に行われた「第2回貞松院長杯ボウリング大会」に、昨年に引き続き2回目の参加をしました。5月より13病棟から外来へ異動してきましたが、今回も13病棟スタッフより声を掛けてもらい、病棟グループに加えてもらっての参加となりました。娘と共に楽しんでいたら、1投目からまさかの3連続ストライクを取り、1ゲーム目を終えたところでトップ(女性は+30のハンデ付き)の点数を出してしまうなど予想外の展開となりました。貞松院長をはじめ、周囲の大きな盛り上がりにも娘も大興奮でしたが、2ゲーム目からは失速し、

昨年同様中西Drが優勝、私は個人3位という結果となりました。チーム一戦となり、他部署のスタッフとの交流を交えながら大変楽しい時間を過ごすことができました。また、来年も開催された際には「プロボウラー中西先生の3連覇阻止!!」を合言葉にまた参加したいと思います。



東佐賀病院合同忘年会

東佐賀病院合同忘年会

庶務係長 森本 圭祐

東佐賀病院合同忘年会を平成30年12月19日に開催しました。

貞松院長より職員へ1年間の労いの言葉があり、忘年会がスタートしました。

まず、各職場紹介から始まり、余興、ビンゴ大会が行われました。

今年の余興は、1病棟・11病棟の合同チームと検査科に出していただきました。

初めに登場したのは、1病棟・11病棟の合同チームで、ダンシングヒーローに合わせて歌とダンスを披露し、会場がディスコの雰囲気にもまれ大盛り

上がりとなりました。つづいて検査科です。独特な曲が流れると、独特な格好をした検査科が登場し、会場が笑いに包まれました。

ビンゴ大会では、たくさんの豪華景品を用意し、当たった人も当たらなかった人も盛り上がり楽しんでいました。

ビンゴ大会も終わり楽しい忘年会の時間はあっという間に過ぎていき閉会となりました。

来年のさらなる活躍に向けて病院一丸となって楽しめた素敵な忘年会でした。



地域医療連携室のご案内

《ご利用方法について》

1. ご紹介いただく場合について

「診療情報提供書（当院様式以外のものでも結構です）」に必要事項をご記入いただき、ファックスにてご連絡下さい。診療情報提供書をすぐに送信いただけない場合は、直接、新患担当医師又は各診療担当医まで電話にてご連絡下さい。その場合の診療情報提供書は、できるだけ患者様が受診される日時までに、地域医療連携室までFAXいただきますようお願い致します。

2. 緊急時のご紹介について

緊急を要するご紹介は、直接各診療科医師へご連絡下さい。

患者様の症状などを医師同士でご確認していただくことにより、受入体制、各種検査室の手配など迅速に対応できます。また、救急搬送によるご依頼の場合には、救急当番医師が対応致します。

3. 患者様へのご説明について

受診当日に「予約案内書」「診療情報提供書」「健康保険証」をご持参のうえ、外来受付窓口へご提出いただきますよう説明をお願い致します。

4. ご報告について

診療結果につきましては、地域医療連携室または担当医から、ファックス若しくは郵便にて速やかにご報告申し上げます。なお、報告がないようでしたら地域医療連携室までご一報下さい。

5. 入院のご依頼について

入院をご希望の場合でも、いったん当院の医師の診察後に決定させていただきますので、ご理解の程お願い申し上げます。なお、緊急の場合は直接各診療科へお電話いただき、担当医にご相談いただきますようお願い致します。

6. その他

お問い合わせ、ご不明な点やご意見ご要望等がございましたら、いつでもご遠慮なく「地域医療連携室」へお知らせ下さいますように、お願い申し上げます。

独立行政法人国立病院機構 東佐賀病院 地域医療連携室

ご連絡は下記のファックス又は電話をご利用下さい。

代 表：TEL 0942 (94) 2048 内線 309

直 通：TEL 0942 (94) 2058 FAX 0942 (94) 3748
(FAXは24時間受付)

E-mail：renkei-56@hosp.go.jp

<平日／午前8時30分～午後5時15分>

※平日午後5時以降及び土・日・祝祭日受付分は、翌日など出来るだけ早急に返事を送らせていただきます。

外来診療担当医表



(受付時間) 月曜日～金曜日(祝日を除く)

新患・再来／8:30～11:30 ※急患はこの限りではありません

小児科受診の新患・再来／8:30～11:30、14:00～16:30

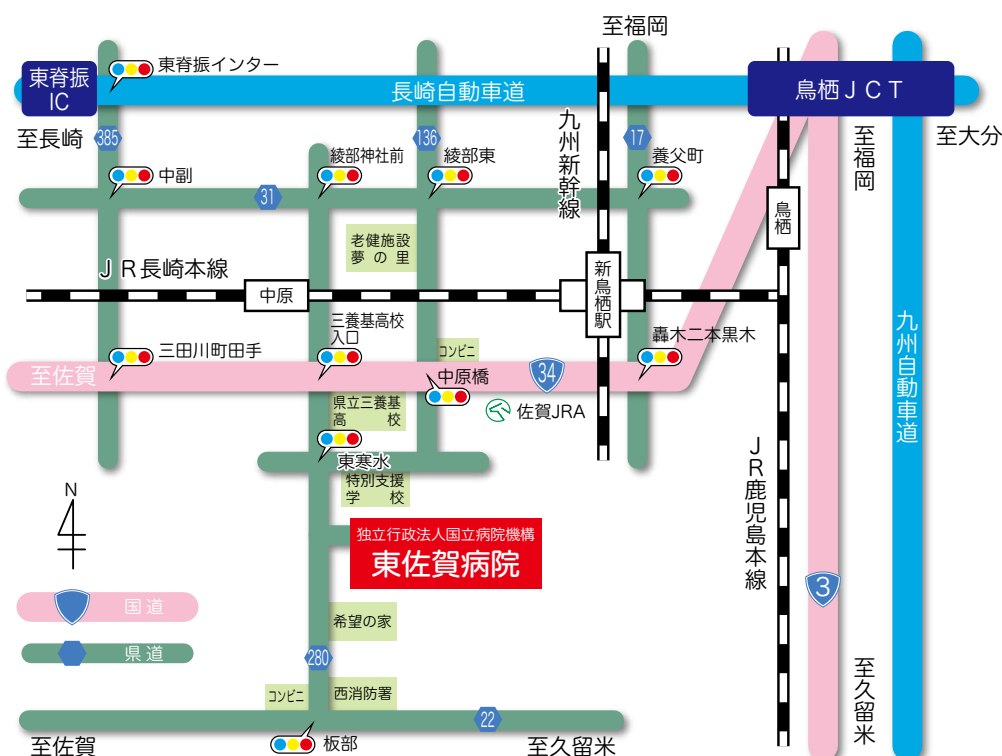
FAX 0942-94-3137

ホームページ <http://www.higashisaga-hosp.jp>

診 療 科 目			月	火	水	木	金	
内 科	新 患		貞松 篤(循環器) 小林 弘美(呼吸器)	千布 節(呼吸器) 高木 佑介(糖尿病)	大井 順二(消化器) 田中 直寛(循環器)	犬山 正仁(呼吸器) 吉村 昌也(消化器)	岡田祐美子(内 科) 那須 俊甫(糖尿病)	
	再 来	呼 吸 器	千布 節	小林 弘美	小林 弘美 犬山 正仁		千布 節	
		消 化 器	吉村 昌也	大井 順二		大井 順二	吉村 昌也	
		循 環 器		貞松 篤	貞松 篤	田中 直寛	田中 直寛	
		内 科						
	専 門	糖尿病・内分泌	高木 佑介	那須 俊甫	那須 俊甫	高木 佑介	重本 里美(9:30～)	
		甲 状 腺 肝臓専門外来						
外 科	消 化 器		北島 吉彦 田中 雅之	北島 吉彦	田中 雅之	北島 吉彦	田中 雅之	
	呼 吸 器			辻 博治	辻 博治	辻 博治	辻 博治	
	乳腺外科 (予約制)						北島 吉彦 田中 雅之 (午後1:30～予約制)	
小 児 科	一 般		午前	山本 修一	荒牧 修一	山本 修一	中西 未来	横田 吾郎
			午後	横田 吾郎	荒牧 修一	佐賀大学	中西 未来	今吉美代子
	専 門	アレルギー (予約制)	午前				前田 (第2) 柳瀬 (第3)	
			午後	山本 / 田中				
整 形 外 科	一 般		本岡 勉 水田 和孝	本岡 勉	本岡 勉 水田 和孝	本岡 勉 水田 和孝	水田 和孝	
	骨粗しょう症							
	専 門	関 節		上通由紀子	上通由紀子		上通由紀子	上通由紀子
		形 成			当面の間休診いたします。			
放 射 線 科			江頭 玲子 (9:00～11:00)					
消 化 器 内 視 鏡			大井 順二	吉村 昌也	吉村 昌也	田中 雅之	大井 順二	
呼 吸 器 内 視 鏡					辻 博治			
心 エ コ ー								
眼 科						午後	午後	

- 栄養相談は、月曜日～金曜日まで毎日行っています。
- 金曜日の乳腺外来は予約制ですので、事前に外科外来にご予約下さい。
- 小児アレルギー外来は、小児の喘息、アレルギー性鼻炎やアトピーなどの診察、相談を行っています。
小児アレルギー外来、予防接種は予約制ですので事前に小児科外来へご予約下さい。
- 眼科外来は、当院にて治療中の患者様に限ります。

病院アクセスマップ



1. JR長崎本線普通列車「中原駅」下車。
南へ徒歩15分(1.4km)
●鳥栖駅～中原駅間 約9分
●佐賀駅～中原駅間 約17分
2. 西鉄バス(西鉄久留米)～(鳥栖駅)間
(あやべ經由41番)の「東佐賀病院前」にて下車。
●西鉄久留米より 約30分
●JR久留米より 約20分
●JR鳥栖より 約30分
3. 九州自動車道及び長崎自動車道
●鳥栖インターより(国道34号線經由) 約30分
●東脊振インターより(県道31号線經由) 約20分

地域医療研修センターのご案内

本センターは医療従事者の方であれば利用者の職種は問いません。
病院の職員をはじめ地域住民の皆様、及び医療機関の皆様、講演会・研修会・勉強会等医療・健康に関するコミュニケーションの場としてご利用下さい。

●お申し込み・お問い合わせ先●

東佐賀病院
管理課庶務係

☎0942 (94) 2048
(内線 333 又は 219)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
冷え込む日々が続いておりますが、みなさんはどのようにお過ごしでしょうか。
インフルエンザも流行しておりますが、しっかりと手洗いうがいをし栄養を取って過ごしましょう。
(広報誌委員会)